



谷口 和弥 議員
(拓政会)



障がいのある人が自分らしく日常生活を送るためには、主体性を持って積極的に社会参加を行うことが重要であり、その一つにスポーツ活動が挙げられる。障がい者がスポーツに親しみ体を動かすことは、健康や体力の保持・増進を図り、地域や社会との繋がりを増やすとともに、社会参加を広げるきっかけにもなる。そのため、障がい者スポーツを一人でも多くの人に理解してもらい、障がい者誰もが身近で気軽に楽しむことができる環境・体制づくりに繋げていくことが重要であり、以下の点について伺う。

- (1)各障がい者スポーツ大会への支援状況、派遣状況について。
- (2)障がい者スポーツにかかわる指導者育成や組織づくり、施設の改善・整備状況について。
- (3)十勝地区身体障害者福祉協会幕別町分会の再結成やそれに代わる組織の設立を支援する考えは。
- (4)「障害者差別解消法」に基づく「障害者差別解消支援地域協議会」



第49回十勝地区身体障がい者スポーツ大会 (写真提供 十勝毎日新聞社)

問 障がい者がスポーツを通じて社会参加できる町に

答 障がいの内容や程度に応じたスポーツに親しめるよう普及・促進に努めていく

がすでに設置されているとされているが活動内容は。

町長 (1)北海道障害者スポーツ大会への参加については、町が窓口となり参加手続等を行っており、平成25年から毎年1人、車椅子陸上スラロームに参加している。

また、十勝地区身体障がい者スポーツ大会については、脱会前の平成25年には18人の方が参加されたと聞いている。

(2)町独自の障がい者スポーツ指

導者の育成や組織化はされていないが、北海道障がい者スポーツ協会や町内の公認資格を持つ指導員2人と連携し、指導員資格制度の周知、呼びかけに努めていくとともに、より多くの障がい者の方々がスポーツに親しみを持てるよう、町内の障害福祉事業者等と連携しながら、周知、啓蒙を図るとともに、身近で楽しむことのできる環境づくりに努めていく。

施設の改善・整備については、札内スポーツセンターや農業者トレーニングセンターは、スロープや手すり、多目的トイレの設置等バリアフリー化を行っており、これら既存の施設を活用しながら、利用者の要望等に耳を傾け、より障がい者の方々に利用しやすい施設となるよう努めていく。

(3)本会が町内の障がい者団体の中心的役割を担ってきたこともあり、その存続を求めてきたが、近年の会員数の減少や会員の高齢化などにより、昨年3月に解散した。再結成は難しいと考えている

が、今後も、他の障がい者団体やサークル活動の支援に努めるとともに、新たな組織の設立については、その動向に注視していく。

(4)地域協議会の活動内容は、適切な窓口機関の紹介や具体的事案の対応例の共有・協議、障がい者差別の解消に資する取り組みの周知・発信や障がい特性の理解のための研修・啓発などを行うこととなっている。

▼「障害者差別解消支援地域協議会」の相談窓口について
障がいのある方が、不当な差別的取り扱いを受けた、合理的配慮を提供してもらえなかったなど困ったことがあった場合は、住民福祉部福祉課に相談してください。
☎ 54-6612 (地域協議会事務局)

再質問 十勝地区身体障がい者スポーツ大会に2015年は14町村部会から約260人、2016年には14町村部会から237人の参加がある中で、十勝第二の町村である幕別から参加がないことは大変遺憾なことである。障がい者のスポーツに対するニーズは把握しているか。

答 障がい者の方たちがどういう思いを持っているかをわかむところから始めていきたい。